

# 農報

術・資材などの  
けします。



畜産

## ハエ対策を万全に



畜産  
園田 遼海  
上島営農指導センター  
0969-45-8433

ハエの発生する季節になりました。  
ハエは家畜に対してストレスを与え、生産性の低下をもたらすだけでなく、伝染病の媒介者となる可能性もあります。さらに、周辺住民からの苦情の対象にもなります。

今一度、対策を見直してみましょう。  
＜ハエのライフサイクル＞  
たまご⇒1日⇒幼虫(ウジ)⇒7日⇒さなぎ⇒4～5日⇒成虫

### 【発生源の対策】

#### ●こまめな除糞、清掃

ハエは糞や残飼料を好んで産卵します。こまめな除糞と清掃を心がけましょう。

#### 【幼虫の対策】

#### ●昆虫発育抑制剤(IGR剤)の使用

発生源となる糞に均一に散布しましょう。1ヶ月間隔で定期的に散布することで十分に効果があります。この薬剤を幼虫が食べると成虫になることが出来なくなります。

#### 【成虫の対策】

#### ●殺虫剤の使用

噴霧はハエが屋内にいる夕方～朝と雨天の日を実施するのが効果的です。

正しい用量・用法で、十分な量で適切に散布しましょう。

#### ●POB法(毒餌による方法)

食毒系薬剤と誘引剤となる砂糖や酒、糖蜜などを混ぜて、ハエが好んで止まる場所(天井、壁)に塗ったり、吹き付けたりして毒餌を置いて殺虫する方法です。

まずはハエの生態を知って、POB法を効果的に実施しましょう。

#### 【ハエの成虫は・・・】

##### ①明かりがないと飛ばない

牛舎の明るい場所に集まって、夜は天井に止まっています。

##### ②足の裏で味覚を感じる

止まった場所に甘い物や好きなものがあれば、足の裏で感知して反射的に口で舐めます。

##### ③仲間の糞や唾液跡、死骸に集まる

天井や照明器具の周りに、黒色(糞跡)や黄色(唾液跡)の点を確認できれば、ハエがよく止まることがわかります。

また、毒餌皿に死んだハエを入れておくことも効果的です。

##### ④1回の産卵は約100個

成虫になって、約10～14日で産卵し、1回の産卵数は約100個。

《ハエの行動をよく観察して、効果的なハエ対策をしましょう。》

野菜



## 甘長とうがらし今後の管理



野菜  
山下 和樹  
上島営農指導センター  
090-5028-9494

追肥……………収穫始めから行う。

※アサヒエース 10a当たり14～20kg (10～14日の目安)  
又は、液肥を500倍かん水する。

かん水……………水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなることもあり、曲がり果の原因になる。

整枝……………主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。

※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果……………曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り…2段目は1段目より40～50cmの高さにする。

※1段目は地面から70cmぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策…Zボルドーを500倍で散布する。(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	2回	スリップス
	アフーム乳剤	2000倍	7日前まで	2回	オオタバコガ
	モスピラン水溶剤	8000倍	前日まで	2回	アブラムシ類

尻腐れ対策…カルシウム剤の散布を行う。  
(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を500～1000倍で散布する。

白絹病対策…リゾレックス水和剤 1000倍 前日まで 2回

# 水稻



## 水稻営農情報



**水稻**  
吉田 義文  
指導販売部  
0969-22-1105

### 品質維持は水管理で

登熟を向上させるためには、根の老化を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持することが大切です。

そのため、間断かん水による水管理を励行しましょう。収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米や粒張り不足・胴割れ米の原因となり、品質や食味を落とします。田んぼの排水路・排水溝を整備して、稲刈りに支障のない限り落水期は延長してください。(刈り取り5～7日前まで水田を乾かさないようにしてください。)

### 適期刈り取りの励行について

1穂初めの85% (籾黄化率) 程度黄色く熟れる頃が収穫最適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので、注意が必要です。目安は出穂期(ほ場の40%程度出穂した日)から30日たった頃です。

### 病害虫防除

いもち病、カメムシの予防防除対策として出穂期と、穂揃い期の2回の防除を行ってください。散布の際は使用基準を遵守し、飛散等のないよう心がけてください。また、散布された際には、栽培管理台帳への記入をお願いします。

### 農薬の使用上の注意事項

農薬を使用する前には、ラベルの適用内容及び注意事項を必ず確認し、適切に使用してください。作業中は農薬マスク、手袋、防除衣など適切な保護具を着用して作業しましょう。

# 営農情報

作物・営農・技術情報をお届け

# 果樹



## 6月の柑橘園管理



**果樹**  
木蜜 栄次  
上島営農指導センター  
080-1759-0088

6月は梅雨時期となり、病気の発生が多い時期となります。今回展着剤で入れておりますアピオンEは、ジマンダイセン水和剤の付着性を高め黒点病の防除効果を高めます。雨の多いこの時期には必ず混用し、商品性の高いみかんをつくりましょう!

### 1. 病害虫防除

項目	時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考	
温州中晩柑	上旬 ～下旬	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	スプラサイド乳剤40	1,500倍	混用散布	
			黒点病	ジマンダイセン水和剤		600倍
			展着剤	アピオンE		500～1000倍
	中旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル	150倍	混用散布	
			サンマイト水和剤	3,000倍		
	下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍		

※ハーベストオイルについては、落果の多い樹・樹勢が弱っている樹には使用を控え、生理落果終了後に散布して下さい。

※カイガラムシが多い園では再度エルサン(乳)1000倍を散布して下さい。

### 2. 葉面散布の実施

新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。緑化が遅れている園では、チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。

目的	資材名	希釈倍数	備考
緑化促進	葉面マグ	200倍	混用散布
	アミノジューシーN14	500倍	
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	デコボン等

### 3. 施肥の実施

栽培タイプ	施用時期	品種名	肥料名	10a当たり施用数
通常タイプ	6月上旬	ボンカン、清見 甘夏・河内晩柑 パール柑	熊本果樹肥料 10-7-4 又は ひのくに果樹 9-3-3	5袋
			デコボン	熊本デコボン 8-3-3

### 4. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果期頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。特に小玉の多い「肥のあかり」を中心に内成りや天成り果を早期に除去して下さい。

### 5. タイベック被覆の実施(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけほの・早生	7月中旬～8月中旬